



①身を守る ②出口の確保 ③火元の確認

もし今から3分後に東日本大震災と同じマグニチュード9クラスの地震が起き、あなたが震度6強の揺れに襲われるとします。その時…ライフラインは麻痺し、電気・ガス・水道・下水道などがしばらくの間使えない恐れ(※)道路等が「がれき」で塞がれるなど物資の流通に支障が出て、必要なものが手に入りづらい恐れがあります。自宅の倒壊等を免れたとしても、当面こうした環境のもと自宅に留まって生活することが想定されます。



(※) ライフラインの機能が95%回復するのに要する目標日数は  
電力7日、通信14日、上下水道30日、都市ガス60日

「首都直下地震等による被害想定報告書(平成24年4月東京都防災会議)」による

生き残るために必要な災害備蓄品は手元に揃っていますか？

「災害に遭ってから買い求めればいいや」…もちろん、それも1つの方法です。しかしそう考える人が多いようで、災害時に必要な災害備蓄品ほど砂漠が水を吸うように…あっという間に商店の棚からはモノがなくなってしまう。しかも発災後数日間には流通が機能しない可能性もあるのです。普段から災害に備え非常持ち出し品(登山用リュックなどに入れて避難時に持ち運ぶもの)と 災害備蓄品(自宅などに在庫しておいて災害時に籠城する際に使うもの)を確保しておけば、あせることなく大切な家族全員を守ることができます。

非常持ち出し品や防災備蓄品、  
買って安心してしまえばなしになっていませんか？

平時だと当然使うことはない災害備蓄品…電池切れや賞味期限切れの可能性もあるので毎年チェックする月を決めて、非常持ち出しリュックの中身や備蓄品の賞味期限などを確認する習慣をつけましょう。  
(このコラムと同時に配布するチェックリストをご活用下さい。)



災害時にペットはどうしたらいい？

ペットを飼っている場合、『横浜 災害ペット』と、インターネットで検索してみてください。横浜市の災害時ペットのガイドラインが出てきます。

自治会館には水も食糧も備蓄品は準備していません。ご家庭での備蓄をこころがけましょう。